

令和4年度消費生活eモニター

第7回アンケート集計

1 調査趣旨

SDGsとは、貧困、紛争、テロ、気候変動など、様々な社会的課題の解決に向けて、「誰一人取り残さない」をキーワードに2030年までに達成すべき17のゴールが定められた持続可能な開発目標のことで、2015年9月の国連サミットで採択されたものです。国や地方公共団体、企業、消費者等が連携・協働し、取組を進めていくことが必要とされています。

昨年度、消費生活eモニターを経験された令和4年度消費生活eモニターを対象に、その後のSDGsに関する取組の実態と意識について調査し、今後の行政の参考資料とさせていただきます。

2 調査事項

「SDGs（持続可能な開発目標）について」

3 調査対象 令和4年度消費生活eモニター 31名 (回答者数27名・回収率87%)

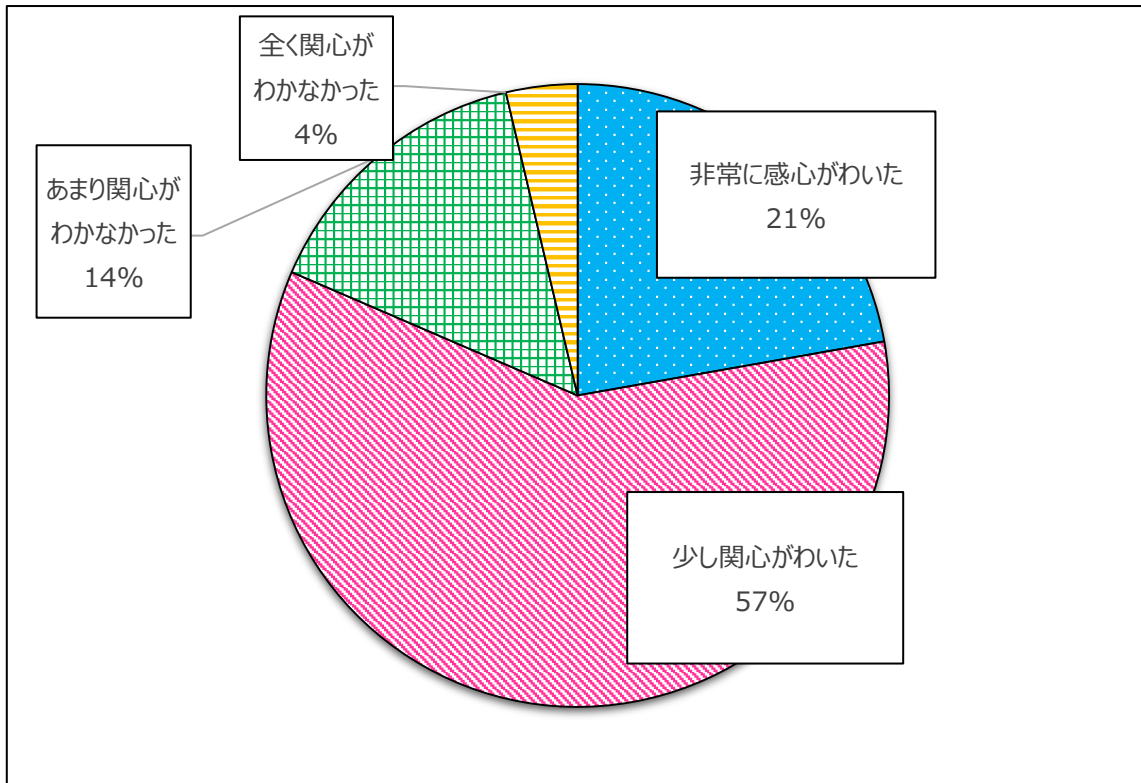
4 調査方法 市ホームページの回答フォームによる

- 集計結果について、四捨五入の結果や複数回答の集計によるため、合計が100%とならない場合があります。
- 調査結果中の「回答者数」は「調査対象者」から「未提出者」を除いた数としました。
- 自由回答、その他意見は一部抜粋。

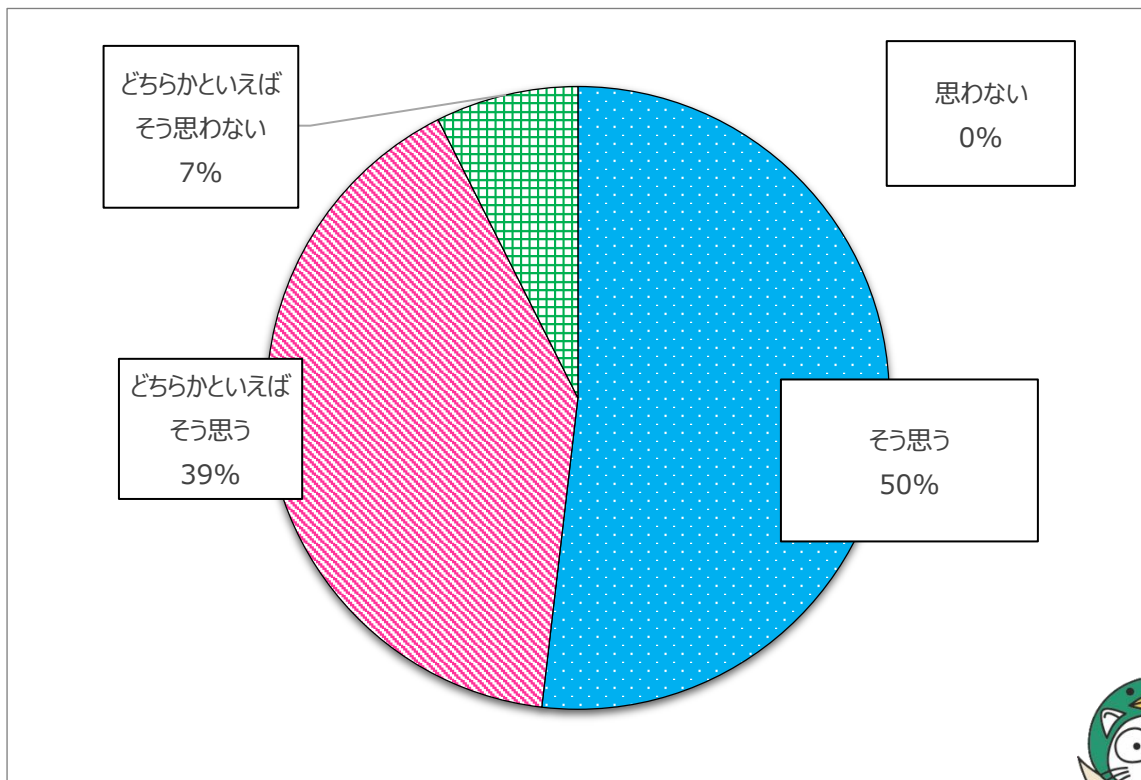


～SDGs（持続可能な開発目標）について

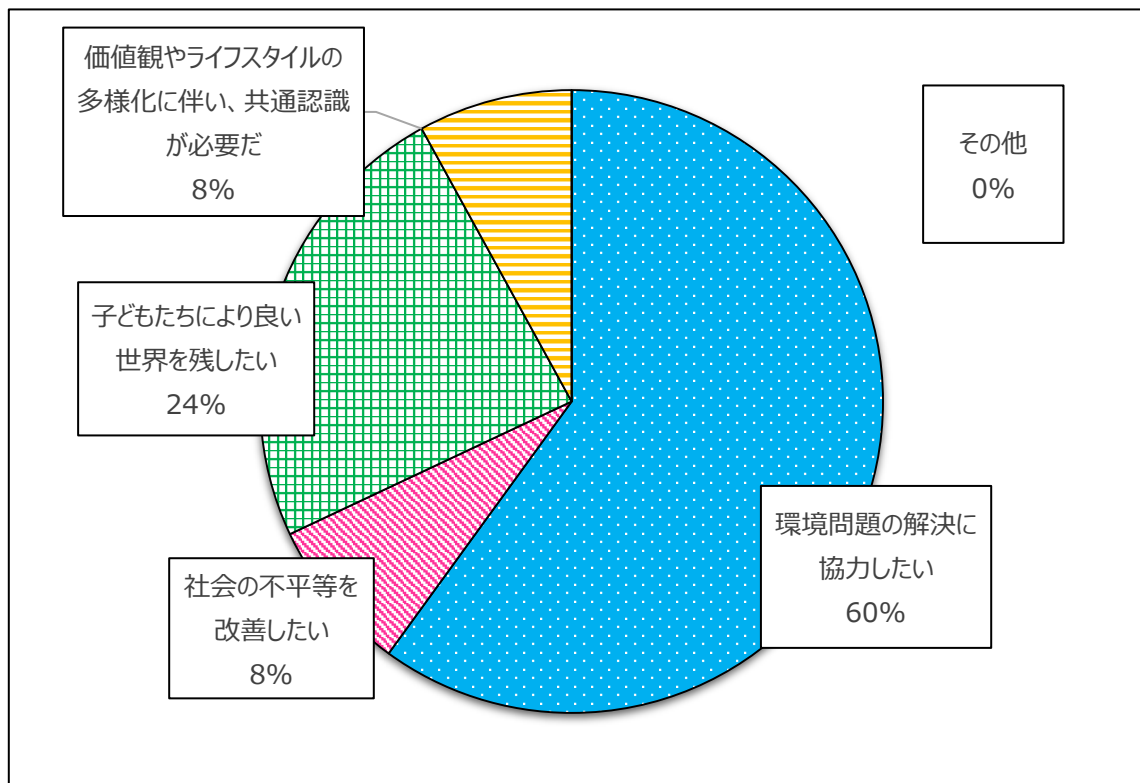
設問1 1年前と比べてSDGsへの関心にどのような変化がありましたか？



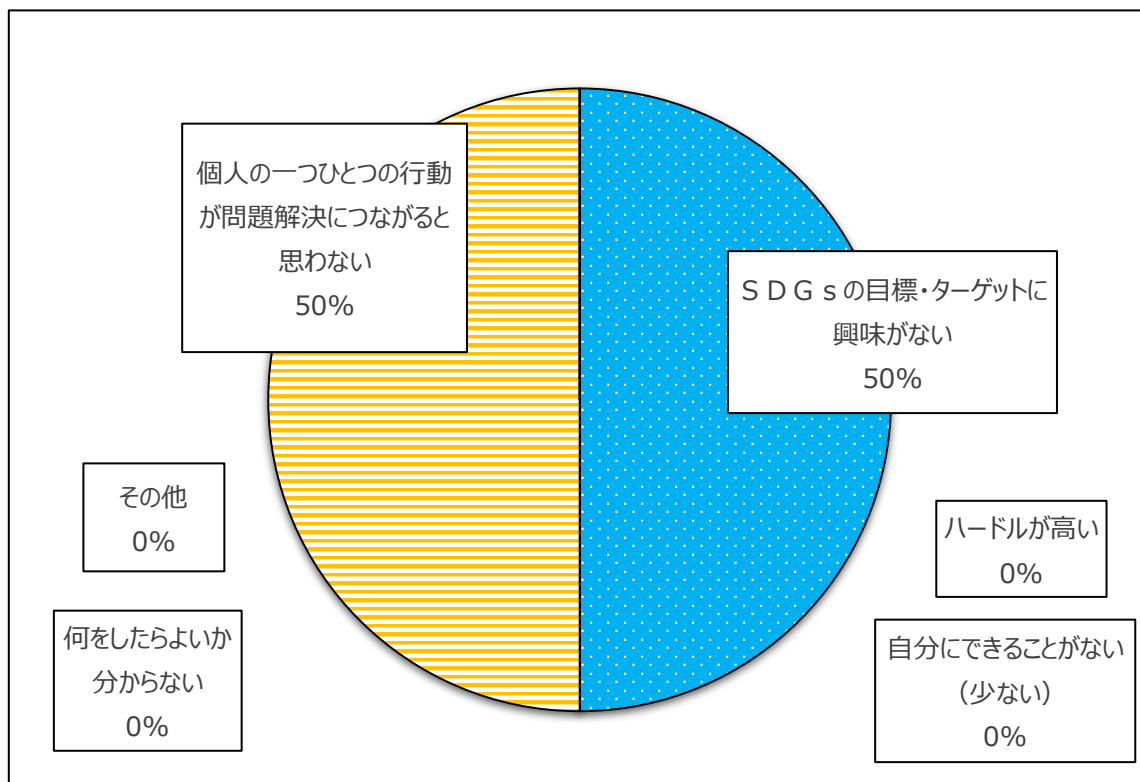
設問2 SDGsにつながる行動をしたいと思えますか？



設問3 設問2で「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか？もっとも近いものをお選びください。

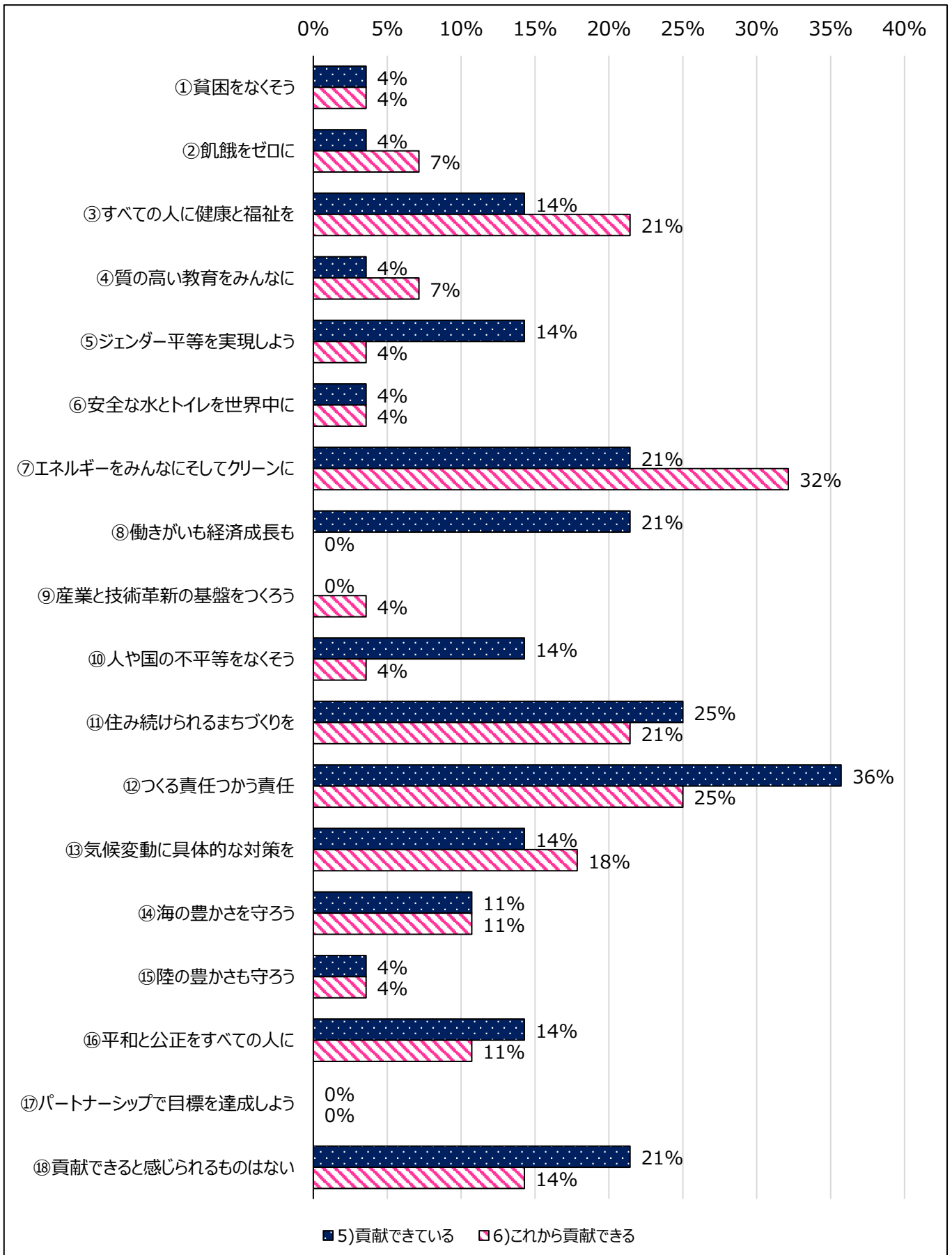


設問4 設問2で「どちらかといえばそう思わない」又は「思わない」と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか？もっとも近いものをお選びください。

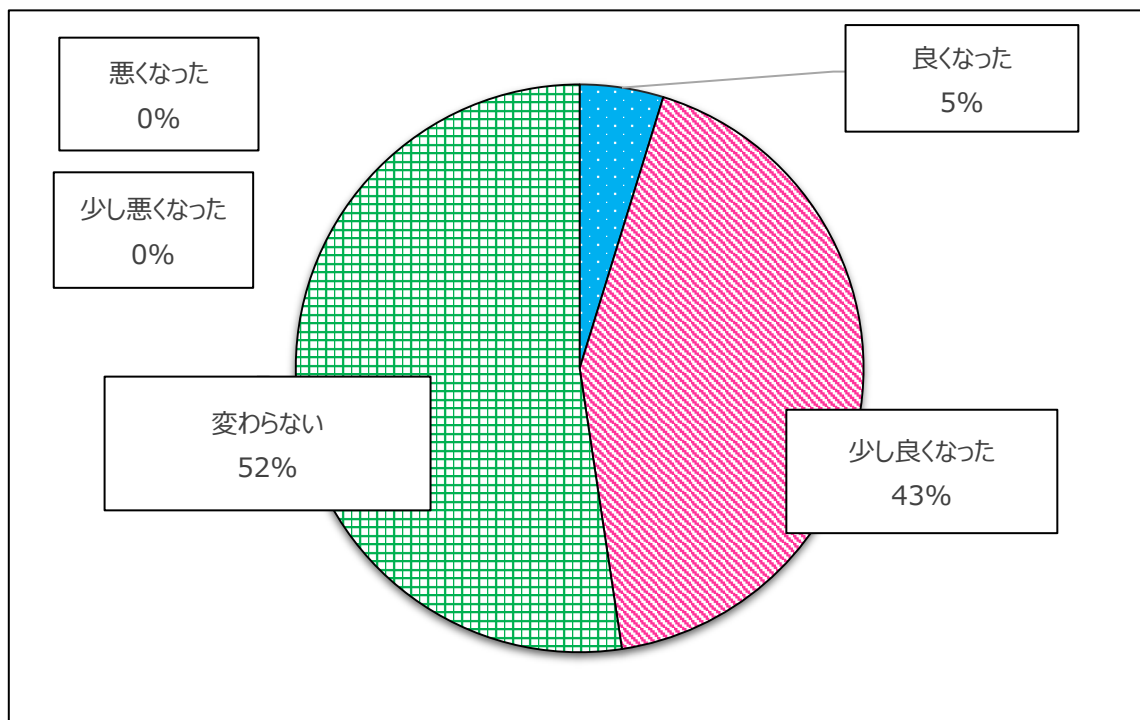


説問5 SDGsの17の目標のうち、御自身で貢献できていると感じられるものはどれですか？（複数回答可）

設問6 SDGsの17の目標のうち、これから貢献できると感じられるものはどれですか？（複数回答可）



設問7 設問5で、「貢献できている」と感じる目標を選んだ方にお伺いします。SDGsの17の目標に貢献することで、御自身や御家族の生活にどのように変わりましたか？



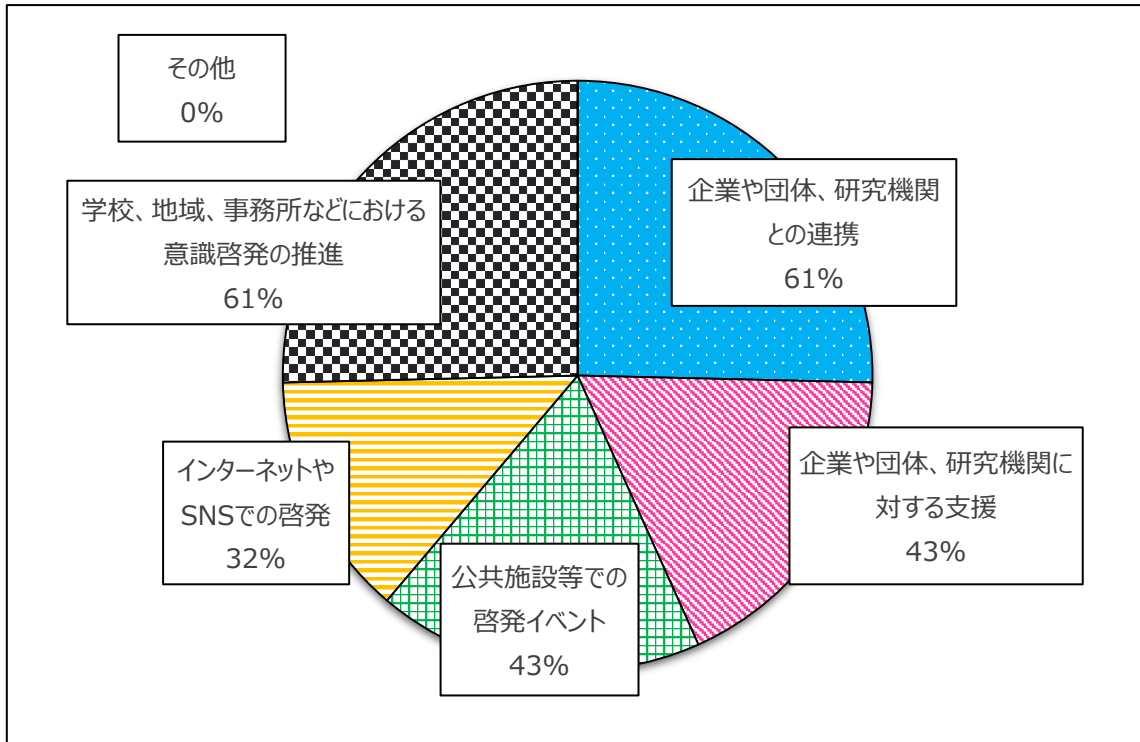
設問8 設問7で「良くなった」又は「少し良くなった」と回答した方にお聞きます。その理由をご記入ください。(150字以内)

- みんなの関心が強くなった気がする。
- 会社にアジアの他人種の方が多いが、文化や価値観の違いはあれど、それを理解して接することで働きやすい環境作りになっていると感じております。
- まず個人が身の回りのことを改善することが第一と思い、町内会の活動に活発に参加した。
- ごみの分別を家族で徹底しました。それにより、生ごみの量を減らすこと、リサイクルできるものの分別、購入をする前に家にあるもので工夫する、という意識が強くなったからです。
- 食べるものを選んでみることに気が付いた。
- なんとなくの数値化していませんが、目標ができて生活にハリができた。
- 資源や色々な物について、よく考え無駄を省くように心がけるようになった。
- 良いことをしていると感じられて、生活に満足感がでた。
- ポイ捨て厳禁
- 男女間やLGBTについて差別のないよう気をつける。人と国の不平人種や国籍の違いによる差別問題に関心が深まった。容器などは極力リサイクルできるものを使う。またリサイクルされたもの(紙など)を使う。

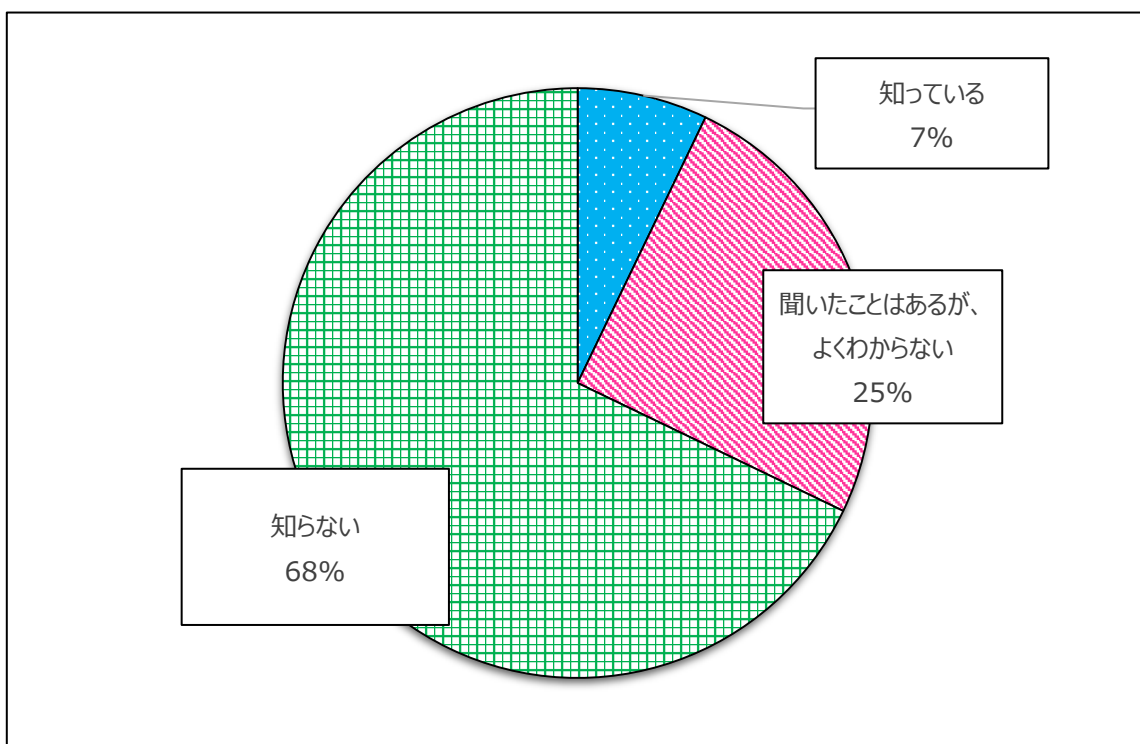
設問9 設問7で「悪くなった」又は「少し悪くなった」と回答した方にお聞きます。その理由をご記入ください。(150字以内)

- 「悪くなった」又は「少し悪くなった」の回答はありませんでした。

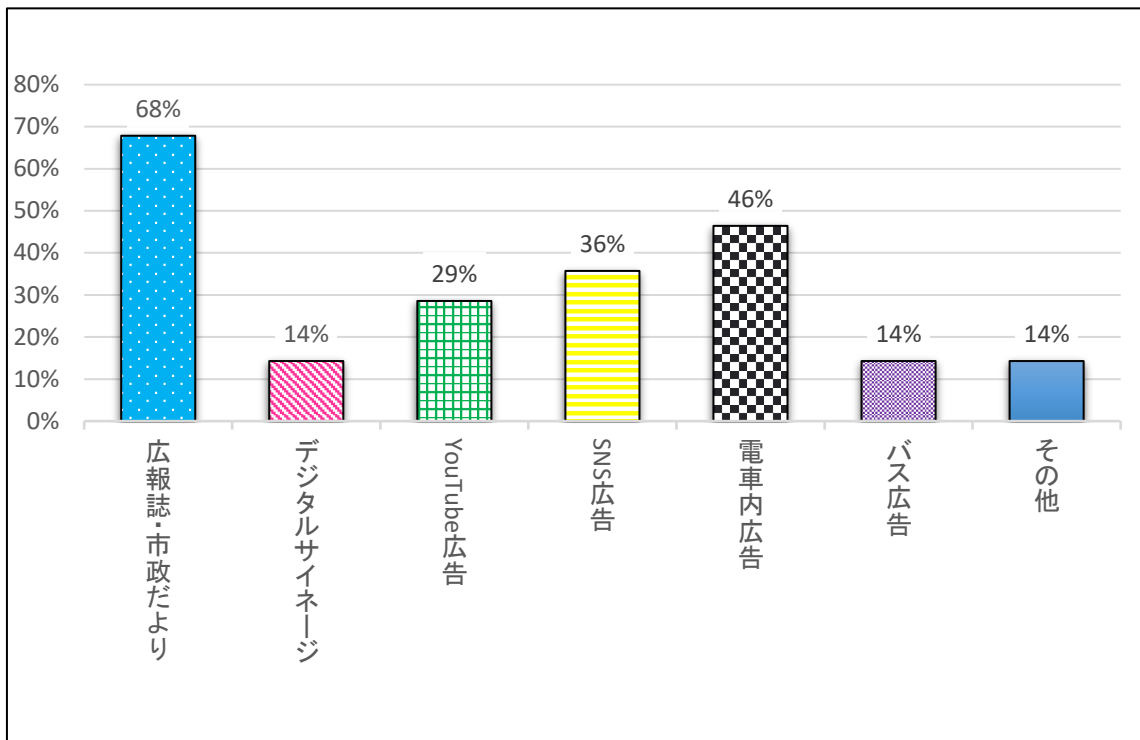
設問10 SDGsの達成に向けて、市内の取組を推進していくために、川崎市ではどのような取組が必要で効果的だと思いますか？（複数回答可）



設問11 「消費者市民社会」とは、消費者一人ひとりが自分達のことだけでなく、地域や将来生まれてくる世代、社会や経済、地球環境のことを考えて消費生活を行い、より良い社会を作るために積極的に参画する社会です。「消費者市民社会」を目指すことは、SDGsの目標達成に繋がると考えます。消費者行政センターでは、消費者市民社会の考え方や具体的な事例について、わかりやすく市ホームページ等で紹介していますが、ご存知でしたか？



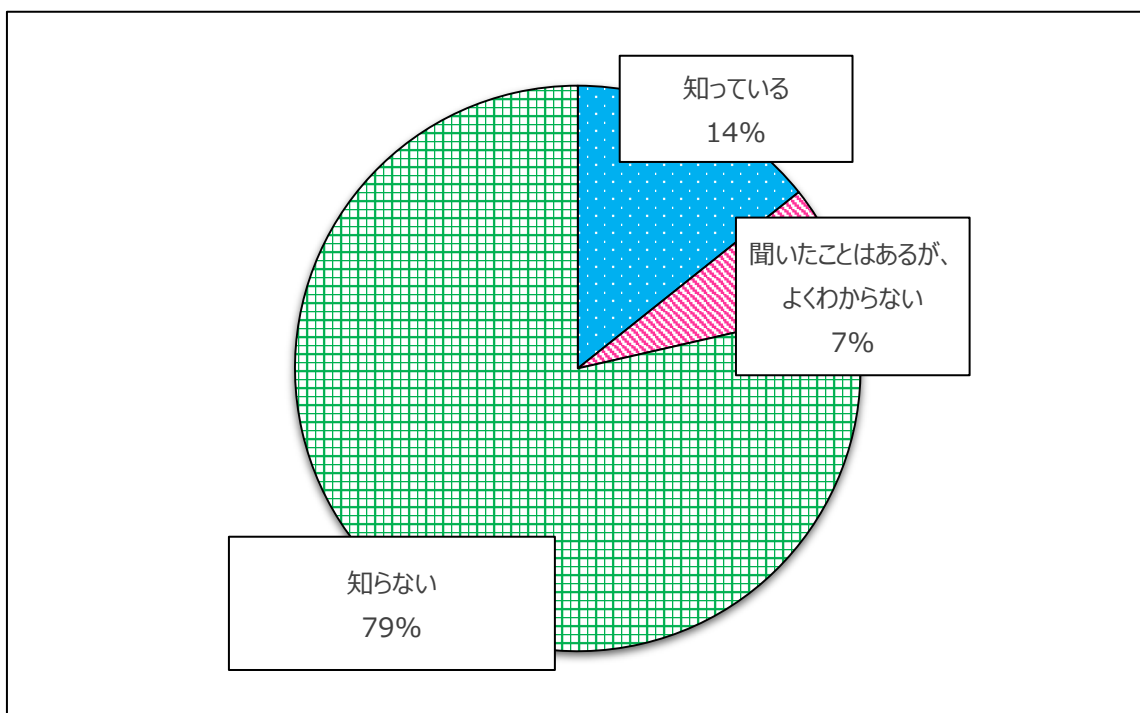
設問12 より多くの方が「消費者市民社会」について関心を持ち、理解を深め、
 するためには、どのような媒体で啓発することが効果的だと思いますか？
 （3つまで回答可）



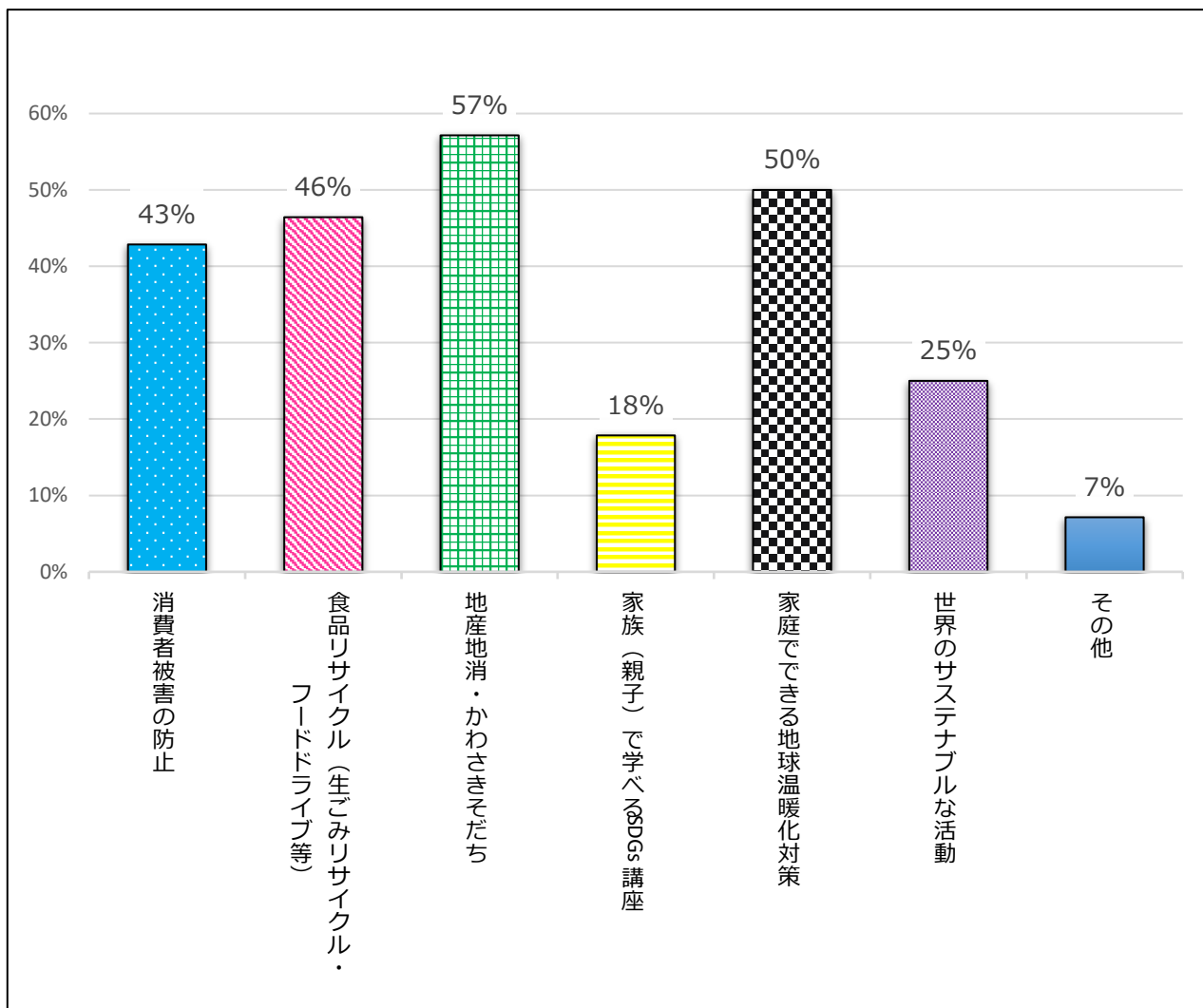
その他の内容

- テレビ番組やラジオの広報で、この件を取り上げる。
- 駅前のポスター掲示。

設問13 消費者行政センターでは、身近な暮らしの問題について学んでいただくために、市内在住・在勤・在学の10人以上のグループ（任意・地域団体、企業、学校等）を対象に、御希望に応じて講師を無料で派遣する出前講座「暮らしのセミナー」を実施しています。ご存知でしたか？



設問14 「くらしのセミナー」には、小学生から高校生向け、親子講座、一般・高齢者向けの講座があります。SDGs、消費者市民社会をもっとよく知るために、どのようなテーマの講座があれば参加してみたいですか？
(3つまで回答可)

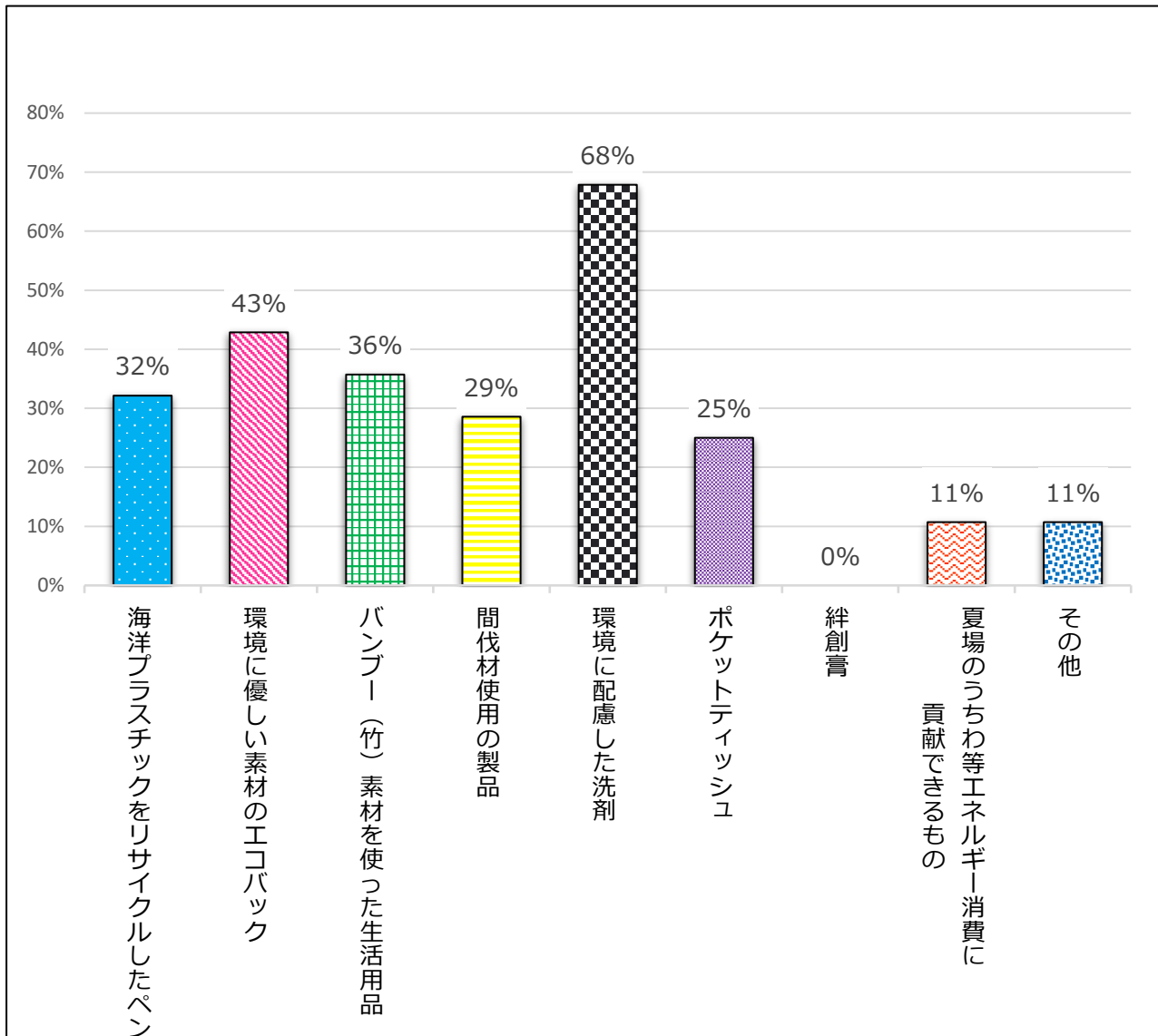


その他の内容

- ・ 戦争反対



設問15 消費者行政センターでは、消費者被害の未然防止、拡大防止のため、リーフレットや啓発物等を街頭キャンペーンなどのイベントで配布し、注意喚起を行っています。どんなグッズやノベルティがあれば良いと思いますか？
(3つまで回答可)



その他の内容

- エコバッグやティッシュ、団扇などは沢山氾濫している。「メモ用紙」などは使いながらキャンペーンを理解していくと思う。
- 上記選択に既にSDGsに反していると思われるものがある。矛盾している。



設問16 消費生活eモニターを経験して、SDGsに関する行動や考え方、取り組みはどのように変わりましたか？御意見等を自由に御記入ください。（一部抜粋）

- 業務で海洋プラスチック問題を扱う機会があった。2050年には海洋資源よりプラスチックゴミの方が多くなると衝撃を受け、プラスチック問題について考えるようになった。貧困への寄付もアフリカの子供の腕の細さに驚き始めた。これらの経験から通常の啓蒙活動では他人事のままである。
- 個人だけでなく、地域や団体が共通認識をもつことが大切だと感じた。
- この様に色々な事を教えていただき今まで以上に関心が持てた。
- お金の無駄遣いしないよう、本当に必要かよく考えて購入するようになりました。
- 普段の生活だと、考える機会がなかなかなかったので、モニターを経験して行動や考え方を見直すように変わったと思う。
- 地球全体を破壊する戦争（訓練含む）でどれだけのCO2が排出されるか皆で検討してみても、とんでもない量の排出量ですよ。家庭のゴミも重要だけれども、今すぐ戦争をやめればどれだけ安心安全な地球になれるか。
- あまり興味がなかったが、自分ができることは少なくとも取り組もうと、行動に移せた。
- SDGsという言葉に敏感に反応するようになったが、一般に広まるにはまだまだ前途多難だなあと感じる。お題目は理想的だが、じゃ実際に何をどうすればいいのかという具体的な目標が明確ではないため、行動がとりにくい。さらに今あちこちで戦闘状態が続いていることを見ると、SDGsに現実には結構厳しいのではないかな。
- SDGsに関する川崎市の取組を色々知る事ができました。また、消費者としてもっと知識や意識を持って取り組むことが必要だということも分かり、勉強になりました。今の一人一人の行動がこれからの環境や理解を作っていくのだと感じています。
- 個人でSDGsに貢献する行動は何があるのか、意識するようになったと思います。個人でも出来ることがあるとわかるということは、大切なことだと思います。
- 息の長い取組で、すぐに効果は出ないと思いますが、気候変動で被害を受けた人もいると思うと、取り組まねばと変わりました。
- 川崎市の広報を熱心に見ていました。しかし、直接こちらに響く記事などはなく、残念です。情報発信の頻度、質問、深み、工夫、など全てにおいて不十分だと考えます。
- 以前から「水の節約、冷暖房の節度ある使用、食品を無駄にしない」などを心がけているので、再認識したものの特に変わった事はありません。ただ、個人では出来る事の限界を痛感します。
- モニターをしていなければSDGsやエシカル消費という言葉難しい問題と思い無視していたと思う。今回のモニター経験でこれらが自分にとって身近で、かつ非常に重要なテーマだと気づきました。また、小さな力でもまずは行動！と思いこれからも少しは賢い消費者になるよう頑張ります。

